
報告者名	大沼 知	被調査者生年	なし
調査者名	俵木 悟	被調査者属性	なし
補助調査者	大沼 知	(参与観察調査のため被調査者の情報なし)	

この日は特定の話者への聞き書きではなく、伊勢講という月浜地区の総会の参与観察を行った。

伊勢講について

伊勢講とは月浜の地区総会のことで、「地区の大事な話し合いは神様の前で行う」ことから伊勢講には必ずオイセサマとも呼ばれるお宮を置き、出席者はそれを拝んでから総会が行われる。年に2回、8月21日と1月21日に月浜公民館で行われていたが、以前は回り宿で行われていた。当番の家をトエ(当家)といいその家はオイセサマを伊勢講まで管理し、その家で伊勢講が行われていた。場所が公民館になってからはトエはオイセサマの管理だけが役割として残り、伊勢講の日に公民館へ持っていくという役目は現在でも続いている。

伊勢講には各家の戸主1名が出席することになっているが、戸主の都合が悪ければ代理が出席することも可能である。

伊勢講の次第として、公民館にトエがオイセサマを持って行って置き、開始時間に合わせて出席者が集まってくる。座順などは特に決まっていない。来た人からオイセサマを拝む。全員が集まると区長の挨拶から始まり、半期事業報告と地区での決め事や問題といった協議事項が出され、話し合いとなる。それが終わると懇親会となり、その時には県議会議員や市議会議員が出席することもあり、地域と役所との意見交換などが行われる。懇親会が終わるとオイセサマの片づけをし、次のトエに引き渡される。そして浜にでて、ハマイワイを行う。ハマイワイとは浜でオイセサマに供えられたお神酒をまき、海に向かって拝み、その後お神酒を飲んで刺身を食すというもので、大漁や海の安全といった祈願をするものである。これを行うのは主に漁業従事者である。

今年の伊勢講

2012年8月21日の伊勢講は里浜に新設された宮戸市民センターで行われた。区長をはじめ役員が開始時間前に集合し、会場準備をして事前打ち合わせを行う。次第に出席者が集まってきて、13時30分に伊勢講が始まる。今回は区長挨拶の後、東松島市の健康推進課から2名の保健士が参加し、熱中症対策の講和とストレッチなどの



写真1 オイセサマ



写真2 伊勢講の様子

運動を出席者全員で行う場面があった。

14時10分ごろにレクリエーションが終わり、総会へとうつる。最初に総会の議長選出が行われ、月浜海苔養殖グループ「月光」に所属する〇氏が任命された。その後事業報告となり、その後協議事項へに入る。協議事項は集落内にある石碑の移動についてやその管理をどうするかといったもので、さまざまな意見が交わされたが、どの事項も最終的には出てきた意見を踏まえて役員の意向に一任するという方向で協議は締められた。

総会が終わると宮戸市民センターから月浜地区仮設の談話室へと移動し、宮城県議会議員や東松島市の土木関係の役員など4、5名を交えての高台移転や今後の土地利用等について行政と地域での意見交換会があり、伊勢講出席者のほぼ全員が参加していたが、とくに参加義務があるわけではない。意見交換会の途中、月浜で海苔養殖を行う5名が1升の酒と刺身をもって浜へ出向き、ハマイワイを行った。酒を浜へまき、海に向かって拝むと、そこで酒と刺身を飲み食いする。それが終わると談話室へもどるがまだ意見交換は終わっていない、それが終わってから懇親会となった。懇親会ではそれまでの総会や意見交換会での緊張感のある雰囲気とは違い、和気藹々とした雰囲気であり、19時ごろにお開きとなって解散した。



写真3 ハマイワイの様子



写真4 懇親会の様子